

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

(ご案内) レポートの名称が長期投資から資産形成に変わりました。内容の変更はございません

【全32銘柄実績報告】

「金のなる木」の花満開、花をつむべきか実になるまで待つべきか？

この資産形成レポート「金のなる木」の特徴は、3-5年で資金3倍化という目標をもとに長期投資としての保有でもよいし、年数回の利益確定を実行して、再度安くなったところを買い直す投資でもよいとしています。それを実現するために暴落で売られすぎた100円以下(但し50円以上)もしくは100円~200円の低位株を と3つのポイントで買い下がる方法を取り、資金の余裕なければ(資金量と上昇率を考えて低位株に絞ったものです) 又は のポイントまで下がるのを待って買うとしました。そして買う場合は、決して特定の銘柄に集中せず幅広く買うようにアドバイスもしています。倒産というリスクを分散させるという意味もありますが、どの株が大きく上るのは誰にもわからないわけですから、平均した上昇率を求めるのが基本となります。この資産形成レポートでは何をかうかという前に「いつかうのか」が重要であり、これが決まればあとは現在のテーマ(新エネルギー関連、中国関連、経済政策関連)にあった銘柄をかうことになります。12/4のスタート以来3/19日号まで、NYダウの暴落予測を前提に大底圏での低位株の銘柄を33銘柄推奨してきました。そして、3/3の臨時号でNYダウの底打ちを予測し、NYダウが3/6(金)の6469ドル、ナスダックが3/9(月)の1265Pで底打ちし、日経平均も連動して3/10(火)の7021円で底打ちとなって、4/10(金)には9068円まで上昇してきました。まずは日経平均の指数を構成する主力株が買われて9068円をつけ、その後もみあって中低位株に物色の広がりがでて、買推奨した銘柄はすべて大きく上昇してきました。

このレポートをとっている会員の方からは、全部上昇しているけれどどうしたらいいのかとの質問がありますが、個別銘柄の対応については個々人に対応して頂く以外にありません。長期投資というスタンスで3年ぐらいと割り切るならば多分、今回安いところで買われている株価は3年先からみると数倍化しており一番の大底で買ったということになると思います。それは目先の上下動を気にしなければそういう投資でもよいでしょう。ただし上昇し続ける株はありませんので必ず高値から、銘柄によってその押しの程度は違うでしょうが1/3押し、もしくは1/2押し、2/3押しという下げはでてくることになります。それがいやであれば日経平均の9000円水準ではいったん利益確定をすべきということになります。銘柄ごと多く買っていれば半分だけ利益確定するのもよいでしょう。個別銘柄の安値からの上昇をみて大きく上げたものは利食い、上昇率が少ないものは保有し続けるという考え方もよいでしょう。

買推奨全銘柄の4/16(木)時点での状況

12/4号

上昇率は買推奨後の安値から、4/16(木)までの間の高値まで

業種	コード 銘柄	12/4の 終値	買ポイント	12/4以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
鉱業	1518 三井松島	-	1/22号で再度の買い 100~120円前後 80円	3/10 69	4/13 121	43%	出島投資ワールド会員には11/5(木)に180円近辺で利食いアドバイスし、1/22号で再度の買い100円~120円80円とするが3/10に69円まで下げて反発。
機械	6369 トヨタ	-	1/22号で再度の買い 130~140円前後 110~125円	1/26 146	08年 12/12 189	23%	出島投資ワールド会員には10/28(木)買推奨し、利食い済。1/22(木)号で再度の買い
建設	1816 安藤建設	130	110~130円前後 100円前後 80円~90円	3/4 116	2/2 164	29%	12/4の130円の後の安値は翌日(12/5)の129円ですこからじり高となって2/2に164円の高値をつけ再下落となって3/4に116円と再び買ポイントへ。持続
繊維	3103 ユニチカ	59	50円~60円 40円台 30円台	2/24 55	4/13 83	34%	持続
繊維	3106 クラボウ	129	100円~125円 90円前後	3/3 127	1/5 157	19%	持続
非鉄	5701 日本軽金属	81	70円~80円 60円前後	3/12 60	4/10 92	35%	持続
非鉄	5738 住友軽金属	78	60円~70円台 50円台 40円台	2/18 76	4/2 97	22%	持続
造船	7003 三井造船	119	110円~120円 80円~90円 60円台	12/5 116	4/13 202	43%	いったん利益確定も可
造船	7004 日立造船	74	60円~70円台 50円台 40円台	3/3 72	4/13 102	29%	持続
銀行	8411 みずほFG	-	19万~22万円台 16万円台 13万円台	3/10 166	1/6 299	44%	いったん利食いアドバイス持続。再度ぐらいまで下げる可能性あり。

12/18号

業種	コード 銘柄	12/18 の終値	買ポイント	12/18以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
鉄鋼	5479 日本金属工業	122	98~110円前後 70円~80円 60円前後	2/24 102	4/16 166	39%	持続

1/8号

業種	コード 銘柄	1/8の 終値	買ポイント	1/8以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
非鉄 金属	5741 古河スカイ	209	180～190円前後 160～170円前後 140円前後	3/10 110	4/14 183	40%	10-12月期が赤字決算になったことで3/10には110円まで急落。しかし材料やテーマがあるため急反発して4/14には183円まで回復。平均買いコスト160円台なのでいったん利益確定も可。持続も可。
電気	6504 富士電機HD	146	120～130円前後 110円前後 100円前後	3/11 77	4/14 150	49%	急激な円高で赤字転落となり、3/11に77円まで売られる。太陽電池関連銘柄として急反発し4/14は150円へ。平均買いコスト110円台。
機械	6361 荏原	206	160～180円前後 140～150円	2/24 151	4/13 281	46%	2/24に151円まで下げとまではいる。平均買いコスト160円台。300円接近はいったん利食いも可。

1/22号

業種	コード 銘柄	1/22の 終値	買ポイント	1/22以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
非鉄 金属	5805 昭和電線HD	72	60円台 50～55円	2/24 50	4/13 80	38%	持続
科学	4208 宇部興産	205	180～190円台 160～170円台	3/3 149	4/4 212	30%	持続 利益確定も可

2/5号(投信型安全重視の大型株バック)

業種	銘柄	2/5の 終値	買ポイント	2/5以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
繊維	3105 日清紡	661	610～630円 570～600円 510～530円	2/18 610	4/7 993	39%	利益確定も可 持続も可
電気	6502 東芝	273	260～273円前後 230～250円	2/23 204	4/10 343	41%	半導体事業の赤字拡大で赤字転落し2/23には204円まで下落。ここから急反発。平均買いコスト250円。持続。利益確定も可
機械	7011 三菱重工	326	300～320円 280～290円 260～275円	2/20 267	4/10 353	24%	買いポイント まではいり買いコスト280円台。持続
卸売	8002 丸紅	341	300～320円 270～290円 260円前後	3/12 265	4/14 409	35%	買いポイント まではいり買いコスト280円台。利益確定も可。
銀行	8411 みずほFG	221	190～220円 160円台 130円台	3/10 166	3/24 235	29%	新規の買いは 以下を待つ。

2/5号(投信型新エネルギー関連低位株バック)

業種	銘柄	2/5の 終値	買ポイント	2/5以降の		上昇率	コメント
				安値・高値			
建設	1964 中外炉	255	220～240円 200～220円 190円前後	2/24 210	3/24 261	20%	利益確定も可
科学	4208 宇部興産	190	180～190円台 160～170円台	3/3 149	4/14 212	30%	1/22号につづく2回目 利益確定も可。持続
金属	5741 古河スカイ	169	170～180円前後 150～160円 140円前後	3/10 110	4/14 183	40%	1/8号に続く2回目。 下げすぎたので利益でてい れば、いったんの利益確定も 可。持続も可。利益確定も可
金属	5981 東京製綱	211	180～200円前後 150～170円	2/17 166	4/9 255	35%	利益確定も可。持続
電気	6508 明電舎	239	200～230円 180～190円 160～170円台	3/10 171	4/10 288	41%	利益確定も可。持続

2/18号

業種	コード 銘柄	2/18の 終値	買いポイント	2/18以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
卸売	8088 岩谷産業	213	190～200円台 170～180円 160円前後	3/4 195	3/25 238	18%	持続
機械	6364 北越工業	116	110～116円前後 90～100円	2/23 112	3/25 144	22%	持続

3/5号 ポロ株セット

業種	コード 銘柄	3/5の 終値	買いポイント	3/5以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
建設	1719 間組	80	70～80円 60円前後	3/9 78	4/8 102	24%	持続
繊維	3104 富士紡HD	67	50～60円前後 40～50円	3/10 60	4/3 95	37%	持続
科学	4611 大日本塗料	84	70～80円前後 60円前後	3/10 77	4/13 101	24%	持続
非鉄	5715 古河機械金属	72	60～70円前後 50円前後	3/6 70	4/13 104	33%	持続
卸売	8074 ユアサ商事	93	80～90円 60～70円台	3/9 89	4/10 106	16%	持続

3/19号

業種	コード 銘柄	3/19の 終値	買いポイント	3/19以降の		上昇率	コメント
				安値	高値		
建設	1893 五洋建設	113	100円前後 90円前後 80円前後	3/23 112	4/13 132	15%	持続
機械	6440 JUKI	69	55～60円前後 50円前後 40円前後	3/23 65	4/14 142	54%	利益確定も可
銀行	8411 みずほ	209	160円前後 140円前後	3/31 186	3/24 235	21%	3/19号で天井圏を知らせる。 3/24に235円をつけて下落中。 待ち伏せ銘柄。

当初の想定では、日経平均の7000円～9000円(最大で9500円)のボックス相場の動きの中で、上限を試せば(例えば9000円水準)次は下限の7000円を試す動きとなると考えていたため、本来ならば全銘柄いったん利益確定して次の下げを待つとするところでしたが、この1～2ヶ月の間に相場を支える材料がでており、いったん下落しても再び大きな上昇となる可能性もあるため、利益確定でも持続でもよいと考えています。

当面の動きはどうなるのか？

<3/10(火)の底打ちから現在までの動き>

1/22号で、NYダウは1/14に暴落暗示が出たことをお知らせし、暴落暗示がいったん先送りとなったものの2/18号では暴落暗示が実現中であることを示しました。そして、3/3の臨時号でナスダックにも暴落型がでているため、ナスダックとともにNYダウは一段安となってこの週にも当面の底打ちとなることを予測しました。その予測通りNYダウは3/6(金)に6469ドル、ナスダックは3/9(月)に1265Pで底打ちとなり、日経平均も3/10(火)に7021円で底打ちとなりました。3/27に臨時号で日本市場の4月以降の動きは7000円～9000円のボックス圏の動きの中で、目先8000円割れぐらいあって反発し、あとはNYダウ次第で戻りの程度が決まるとしていました。

その後の動きは3/27(金)に8843円まであって下落となり4月にはいつかの調整は4/1の8084円で止まって8000円割れとはならず、スピード調整となってそのまま反発し4/10(金)には9068円と一時9000円台のせとなりました。今週にはいつても9000円の手前でのみみあいとなっており、もう少し上を試すのか、いったん下落するのかという状況になります。

こういう動きをみると市場関係者は「大底を打った」「景気は年後半には回復する」というような強気の見方がでてくることになります。現実には株価が上昇するとそれを裏付けるような分析もできます。例えば一目均衡表の雲をぬけてきたことや徐々に上値の抵抗ラインをぬけてきたことです。ある一面だけをみるとそうみえますので、本来強気の株式市場はそういう強い面だけを投資家に与えて市場に参加させようとしています。

だが、冷静な目でみると、この上昇が新しい資金流入(新規の個人投資家の参加)で上昇しているのではなくカラ売りの買い戻しが中心となっている上昇ということなのです。本格上昇になるためには出来高30億株以上、売買代金2兆円以上が続くことが必要です。出来高を多く伴わないで大幅上昇してきたということは買い戻しがいったん終わったあとに何か悪材料がでると急落というパターンになりやすくなります。先週末に10兆円規模と予想されていた追加の景気対策が15兆円まで増加したことで、4/10(金)に9068円までありましたが、大引けは8964円となって一段高の上昇となりませんでした。この追加の景気対策15兆円にあまり魅力がないため、一段高にならないとしたら、あとは再びNYダウのフォローだけが頼りとなります。日経平均の大きな抵抗ラインは1/7の9325円(最大で今年の9521円)となりますが、果たしてどうなるのかというところです。ただし、今月の下旬まで高値圏のみみあいが続けば追加景気対策の15兆円の内容に対して個別株で物色される動きとなる可能性が高く、これまで塩漬けした株をいったん現金化するチャンスがやってくることとなります。

相場は上にも下にも必ず行き過ぎというものがでできます。今は上に行き過ぎとなってきています。行き過ぎという見方は、テクニカル面の過熱感やPERなどの株価の買われ過ぎの面からみることができます。例えば、日経平均の25日移動平均線(もしくは30日移動平均線)からの乖離率の拡大、騰落レシオの高止まり、短期で30%近い上昇率、日経平均のPER100倍突破(通常はPERは20%台)などいつ下落してもおかしくない状況です。しかし、9000円に到達してもなかなか下落に結びつかないことからさらに上昇するための踊り場(高値圏で日柄調整が終わり、値幅調整がない)となっているという見方です。それであれば現水準でも押し目買いをしていくということになりますが、そうでなかった場

合は高値づかみとなります。リスクを少なくする投資ならば当然、現在は行き過ぎであるから、ある程度大きな調整を待つというのが基本となります。

先週SQを通過したことで、今後3月期末の決算内容によっては「5月危機説」をささやかれてきますので、徐々に様子見となってくる可能性があります。昨年までは4月末に向けてゴールデンウェーク前はいったん利益確定のアドバイスをし、結果的に連休明け後に大きな調整にはいるパターンが多かったようです。今回も考え方は同じでいいと思いますが、連休明け後は逆に安いところあれば買いチャンスとなる可能性もあります。それは4月始めの金融サミットで世界各国が景気対策で一致し、これ以上の金融不安と景気底割れはなくなったとも見方(このためカラ売りの買い戻しによって大きく上昇してきた)もでており、さらに政府の追加の景気対策が当初の10兆円規模から15兆円に膨らんだことで当面の景気に対する期待がでてきました。そうすると次の下げは8300円前後、もしくは8000円前後で止まれば再度上値を目指す形となり、そのあと本格調整というパターンも考えてもいいかもしれません。

.....4/15の出島式投資ワールドの一言メッセージ ...

このまま大きな下落となっても、そこは買いチャンス
... このまま、もう少し上値を試す場合もあるが ...

< NYダウの当面の動きを考える >

日経平均は、先週末の4/10(金)にザラ場高値9068円をつけたあと今週には行って3日連続安となって、本日は99円の8742円となりました。このまま大きな調整となっていくのかはNYダウ次第といえます。そのNYダウも柴田野線のチャートを見てわかりますように、高値圏で戻り高値を更新している形ですが、上値はどんどん重くなっており、上値には下降トレンド(A)と(B)のフシがかぶさっており、たとえ反発しても上値は限定的(8200ドル程度)といえます。逆に4/7の7733ドルを切ると売転換出現となる状況でもあります。ただ、今回は売転換が出現しても3/6の6496ドルという最安値を更新する動きとはならず、3/6の6496ドルから4/9の8150ドル(ここが戻りのピークとなった場合)までの上昇幅の1/3押し(7599ドル)水準もしくは、1/2押し(7323ドル)水準まで下落して、次の第2波動がでる可能性があります。その背景は経済指標や企業業績の一部に明るさがみられ、又、大型の景気対策が実施されてその効果がでてくる状況が考えられます。それらを織り込んで第2波動(2段目の上昇)がでてくるとそれが終わったあとに本格調整となるかどうか、その時に判断することになります。今年始めに想定したように上限を試したあと、すぐに下限を試しにくるというような単純なボックス相場的な動きは、相場環境に良い変化ができていますので、修正が必要となってきたということです。

< 日経平均の当面の動きは? >

NYダウが上述したような動きになるとすれば日経平均もそれに近い動きとなることが想定されます。日経平均も7000円~9000円(最大で9500円)のボックス圏の中で上限(NYダウ次第としていました)を試したあとは下限を試すとしていましたが、上限(4/10の9068円の場合もある)を試し終われば、下限の7000円に向かうのではなく、3/10の7021円から4/10の9068円(それ以上の場

合もある)までの上昇幅の 1/3 押し(8386 円)水準、ないし 1/2 押し(8045 円)水準まで下げて、そこから第 2 波動(2 段目の上げ)がスタートする可能性が高いといえます。 日経平均はこのまま下げて 4/8 の 8556 円を切って売転換がでる場合でも、それは 3/10 の 7021 円から 4/10 の 9068 円までの上昇の一区切り(つまり第 1 段目の上げの終了)を意味するだけで、次の押しを確認したところから第 2 段目の上昇となる可能性が高いといえます。その背景は追加の景気対策が 10 兆円規模から 15 兆円規模に膨れ上がったことや需給要因として 4 月になって外国人の売りが減少し、買い越しに転じる可能性がでてきたことや信用取組みが買い残が大きく減少し売り残が増加して 1.0 倍以下となっており、将来の上昇要因と考えられることなどがあります。 投資戦術はこのまま戻りが続けばキャッシュ化を徹底し、次の下落の 1/3 押しないし 1/2 押しを待つこととなります。

～ 柴田罫線「諺」一〇八話集 ～

第十話 罫線観測の心得

ネット売買の普及で株式、商品相場も五分、十分といった小刻みな波動を観測出来る便利な時代で私共の時代とは雲泥の差がある。手数料も安く、便利で取っ付きやすく大変喜ばしいと思う反面、再三警鐘も鳴らしてきた。

第十一話 日計り一度経験身に付いたら中々矯正できない

人間の癖、技術、スポーツ等々一度身に付くと中々矯正が難しい。一日に五～六回も日計りで売買することが当たり前と思い実行している投資家が大半と聞いているが、一日中ネットに張り付き仕事も手に付かずデイトレードに明け暮れる。私は、これは異常で本来の投機、投資ではなくただのギャンブルとしか思われぬ。投資金額の差の違いはあっても大半は失敗して始めて相場の恐ろしさを思い知り投資放れの悪い結果も予想される事を心配し愁う。これは投資とは言えず日雇い労働者のようであり、言い過ぎか、今後共この相場投資方法で大成する事は難しいのではないか。

第十二話 柴田罫線にも目先張り「セリ」売買がある

確かに父存命中は大勢的に週足、日足、節足が売買型となり、建玉の仕込み、仕手舞、最終段階で仲買店より直接電話で「セリ」を入れていたが、現在の日計りとは意味が違っているので迷惑であり今一度再考を。